

個人投資家向けWEB会社説明会

コスモエネルギーホールディングス株式会社（証券コード：5021）

2024年8月28日（水）

本日の流れ

① コスモグループについて (約5分)

② 中長期的な成長戦略 (約10分)

③ 足もとの業績 (約5分)

④ 株主還元 (約10分)

質疑応答 (約30分)

① コスモグループについて (約5分)

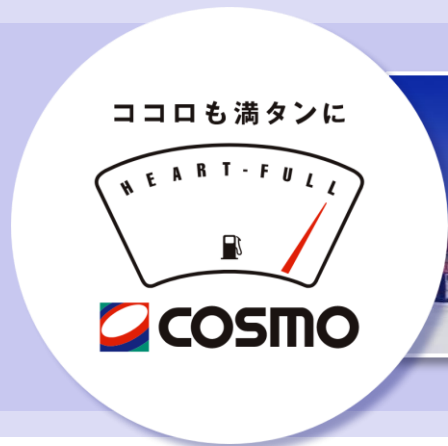
② 中長期的な成長戦略 (約10分)

③ 足もとの業績 (約5分)

④ 株主還元 (約10分)

質疑応答 (約30分)

会社概要



商号	コスモエネルギーホールディングス株式会社 COSMO ENERGY HOLDINGS COMPANY, LIMITED
事業内容	総合石油事業等を行う傘下グループ会社の経営管理 及びそれに付帯する業務 事業セグメント：石油事業 / 石油化学事業 / 石油開発事業 / 再生可能エネルギー事業
本社所在地	〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 TEL：03-3798-9338（代表）
証券コード	5021（東証プライム市場）

グループ概要



コスモエネルギーホールディングス株式会社

コスモエネルギー開発株式会社
(資源開発会社)

コスモ石油株式会社
(供給会社)

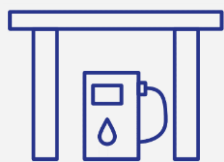
コスモ石油マーケティング株式会社
(販売会社)

主な事業会社、関連会社

石油事業 (精製・販売)	石油化学事業	石油開発事業	再生可能 エネルギー事業
コスモ石油 コスモ石油ブリカント ジクシス コスモ石油マーケティング コスモ石油販売 コスモエネルギーソリューションズ キグナス石油	丸善石油化学 コスモ松山石油 CMアロマ HD Hyundai Cosmo Petrochemical	コスモエネルギー開発 アブダビ石油 カタール石油開発 合同石油開発 Cosmo E&P Albahriya Limited	コスモエコパワー CSDソーラー

事業概要

石油事業（精製・販売）



- 石油製品の精製
- 国内輸送・販売
- 海上輸送・備蓄
- マイカーリース
- 水素ステーション
- 電力事業

石油化学事業



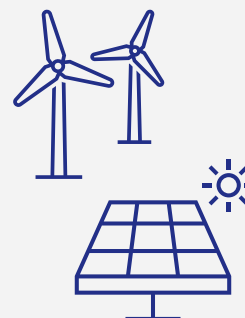
- 石油化学製品の製造・販売
- 研究開発

石油開発事業



- 原油の開発・調達

再生可能エネルギー事業



- 風力発電開発・建設
- 太陽光発電所運営
- 蓄電事業

事業概況 ～事業セグメント規模～

	石油事業 (精製・販売)	石油化学 事業	石油開発 事業	再生可能 エネルギー 事業	その他事業・ 連結処理含む	連結※1
売上高 (FY23)	2兆4,456億円	3,618億円	1,278億円	143億円	▲2,199億円	2兆7,296億円
売上高目標 (FY24)	2兆8,070億円	3,990億円	1,370億円	140億円	▲1,570億円	3兆2,000億円
経常利益 (FY23)	907億円	▲78億円	683億円	28億円	76億円	1,616億円
経常利益目標 (FY24)	860億円	0億円	660億円	20億円	110億円	1,650億円
従業員数	4,072名	1,142名	298名	232名	786名	6,530名

※1 連結処理を含む

① コスモグループについて (約5分)

② 中長期的な成長戦略 (約10分)

③ 足もとの業績 (約5分)

④ 株主還元 (約10分)

質疑応答 (約30分)



Vision 2030

**Vision 2030を見据え、
持続的な企業価値向上を
目指していく。**

2050
カーボンネット
ゼロ

Vision
2030

2023～
2025年度

2018～
2022年度

第7次連結中期経営計画

Oil&New ~Next Stage~

企業価値向上

収益力

資本政策

成長期待

(還元・健全性・効率性)

経営基盤の変革

(HR・Digital・Green)

Vision 2030

未来を変えるエネルギー、社会を支えるエネルギー、
新たな価値を創造する。



グリーン電力 サプライチェーン 強化

発電～需給調整～売電
サプライチェーン
高付加価値化



次世代エネルギー 拡大

SAF供給、水素および
他エネルギーの取組



石油事業の 競争力強化 低炭素化

デジタルプラント化等による
競争力強化、
CCS/CCUSによる低炭素化

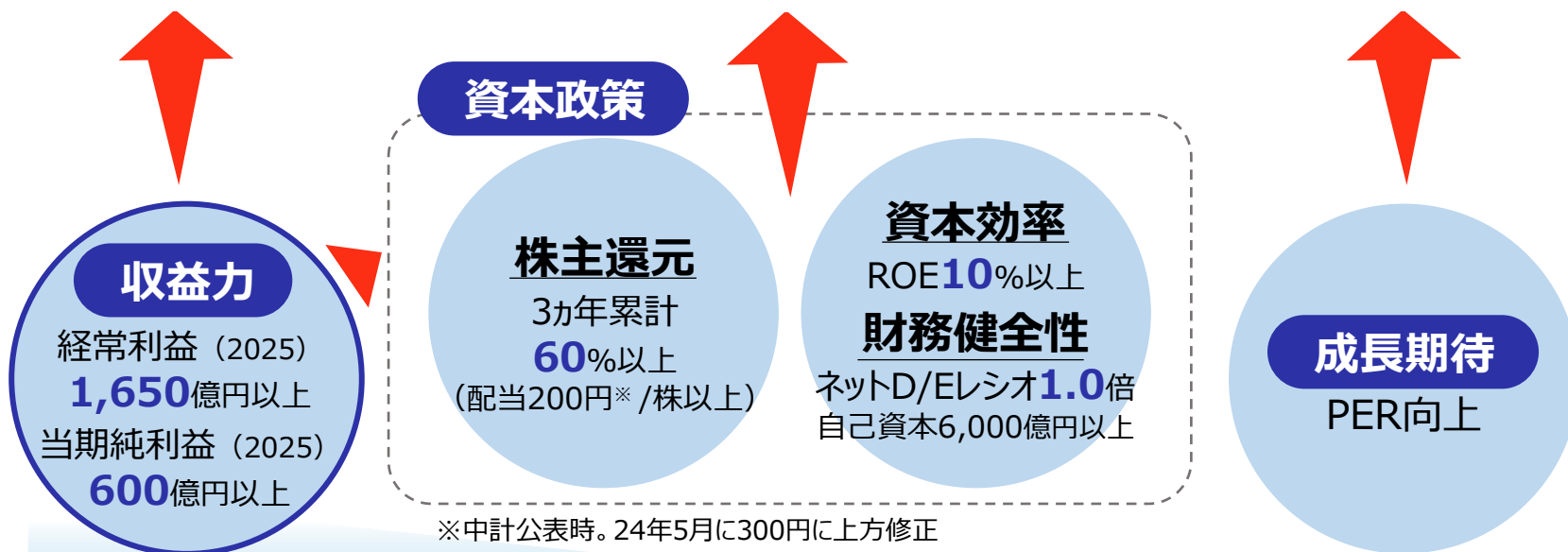
Vision 2030_ありたい姿



収益性

経常利益 **2,000~2,500** 億円
当期純利益 **900~1,200** 億円

企業価値向上 [PBR向上]

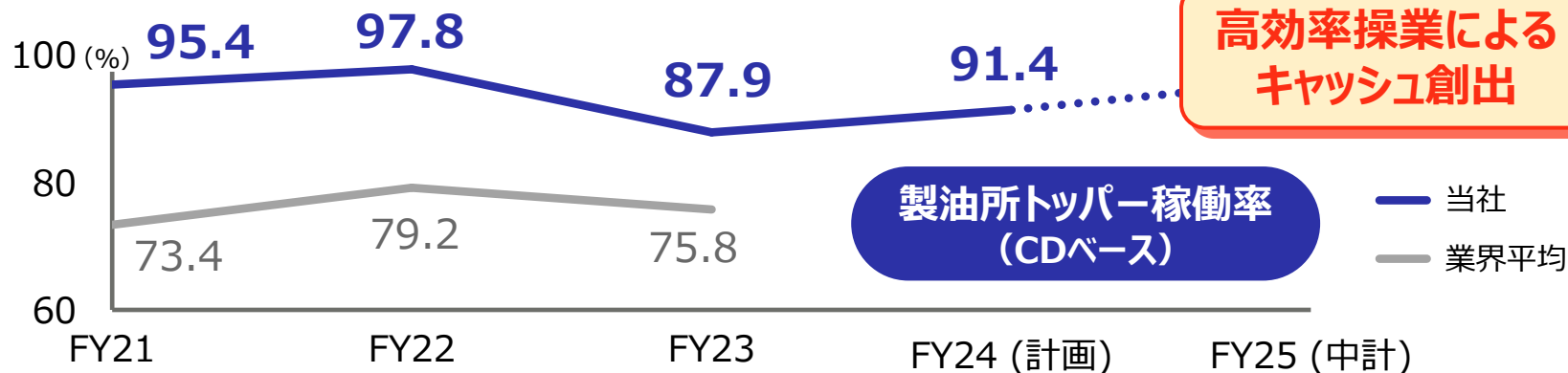


収益性

経常利益 **1,650** 億円以上
当期純利益 **600** 億円以上

■ 1. 収益力 ～ Oil & New ～

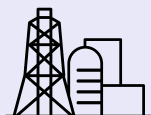
高稼働：稼働率9割前後を維持 ～ショートポジション戦略による製油所の継続性～



計画外停止の低減・整備日数短縮



全3製油所すべてDX化を推進



全3製油所すべて認定制度を取得

【ご参考】ROE

効率的に収益をあげている

中計目標（25年度10%以上）を初年度達成

 **COSMO**

14.6%

元売りA社

9.5%

元売りB社

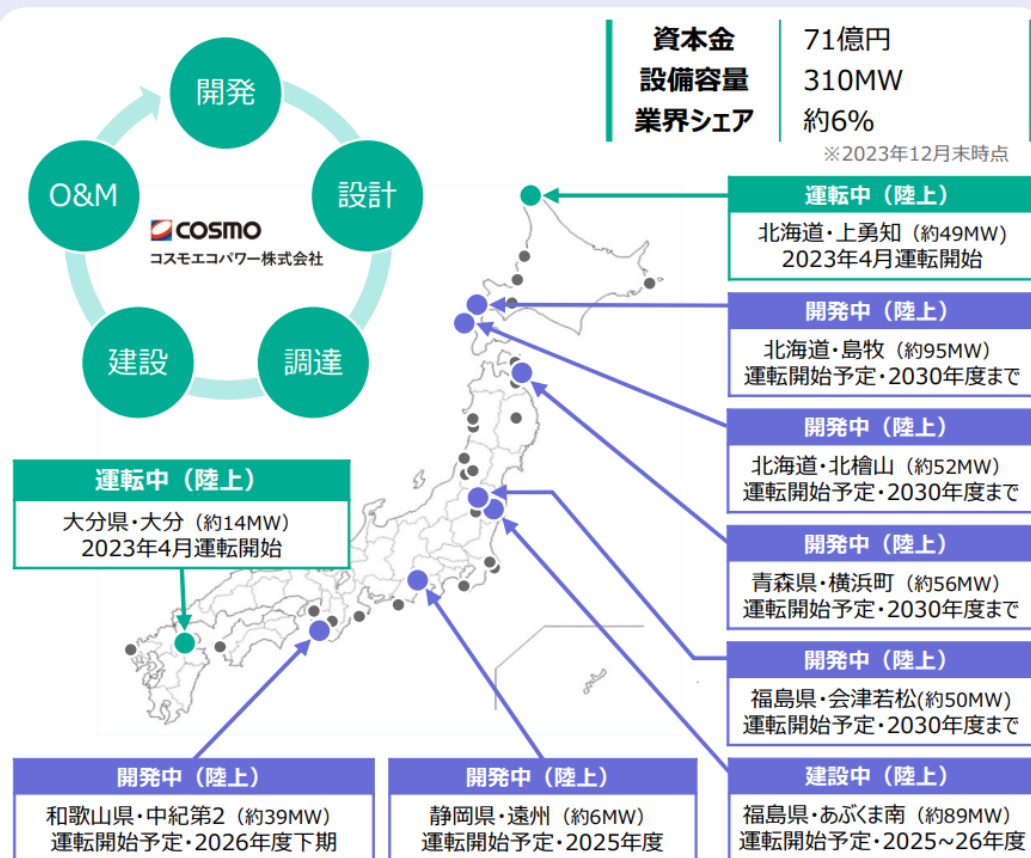
13.4%

■ 2. 成長期待 ～ Oil & New ～

再生可能エネルギー：風力発電

風力発電のパイオニア コスモエコパワー社(創業'97年)

国内最大規模の風力専門会社を中心に全国で推進



廃食用油原料「国産SAF」

24年度内に国内初の量産化を予定

3万KL/年 生産へ (堺製油所内)



岩谷産業社と資本業務提携

水素事業をはじめ、脱炭素社会 実現に向けた協業を推進

グリーン水素やインフラ整備へ



【ご参考】トピックス① ～ 脱炭素社会の実現に向けて ～

【水素】トラックステーション開設

トラックステーション第一号店オープン

2024年4月、第一号となる「岩谷コスモ水素ステーション平和島」開設



都府県2か所での水素ステーション整備事業者に選定

大型トラックやバス等商用車向け 水素ステーションのマーケット創出へ



CCS

関西電力社と堺泉北エリアでのCCSバリューチェーン構築に向けた共同検討を開始

関西電力社と、液化・貯蔵・出荷設備を共同検討し、より大規模で効率の良い設備の設計をめざす

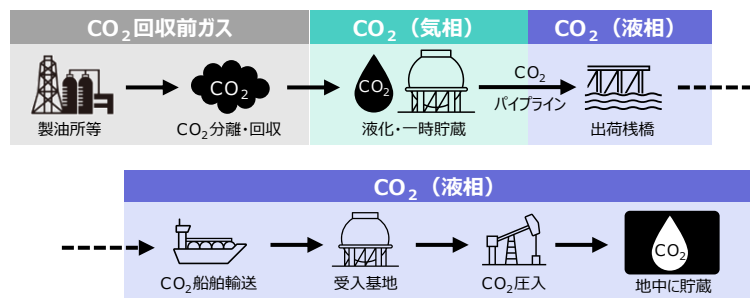
商船三井社とCCSバリューチェーン構築に向けた海上輸送等の検討に関する覚書を締結

関商船三井社と液化CO₂船の仕様や輸送コスト等、海上輸送に関する覚書を締結し、ノウハウの蓄積をめざす



CCS
(Carbon dioxide Capture and Storage)
二酸化炭素を貯蔵して活用に備える次世代技術

CO₂ 回収・貯蔵 (CCS) のイメージ図

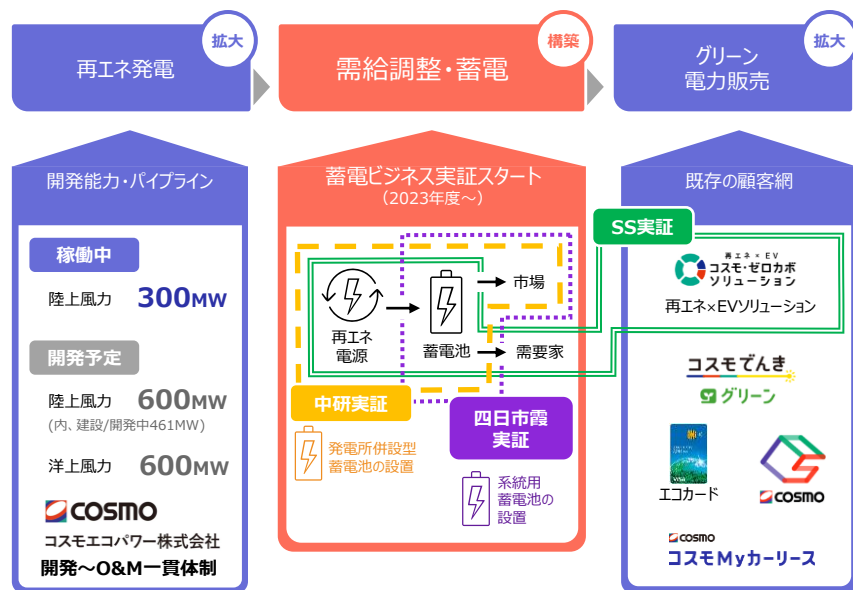


【ご参考】トピックス② ～ 脱炭素社会の実現に向けて ～

グリーン電力サプライチェーンの収益拡大

蓄電ビジネスの実証を開始

- 四日市霞発電所、中央研究所、直営SSの3カ所で実証を開始
- 蓄電池運用ノウハウの獲得、新たな電力市場取引への参画、コスモ・ゼロカーボンソリューションへの展開を図る



コスモでんきビジネスグリーン 拡大中

導入先2,400か所突破 公共施設などに拡大中

風力発電による環境にやさしい再生可能エネルギーを学校や役所など公共施設へ導入しています。

- 川崎市の市立学校・区役所等の207施設へ再生可能エネルギー100%電力の供給開始
- 横須賀市立の全小中学校等72校へ実質再生可能エネルギー電力を供給開始
- 葉山町内の公共施設15箇所に実質再生可能エネルギー電力を供給開始



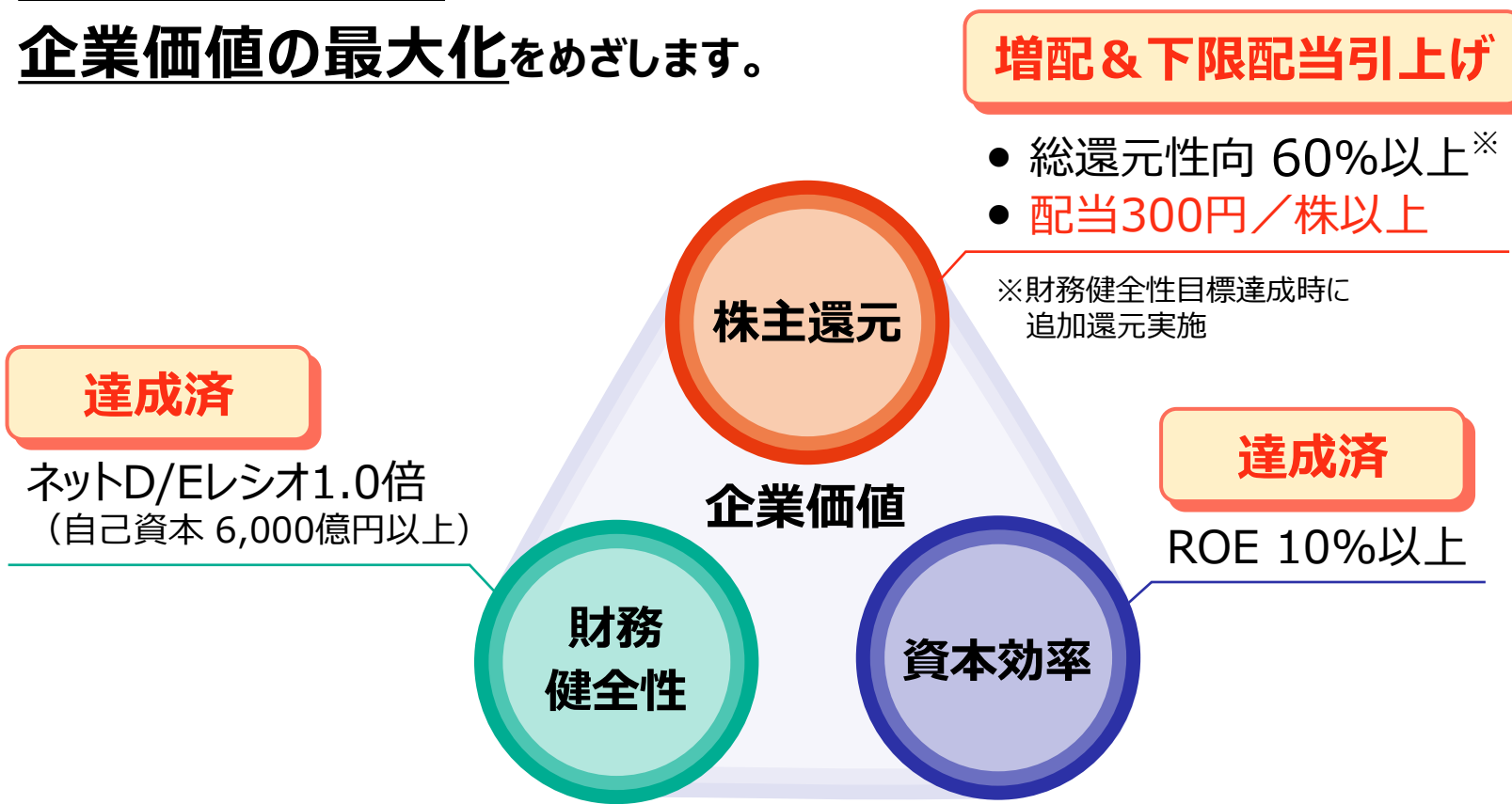
川崎市立 川崎高等学校・附属中学校



横須賀市立 大楠中学校

■ 3. 資本政策

株主還元・**財務健全性**・**資本効率**のいずれも欠けることなく、
三位一体で実行することで
企業価値の最大化をめざします。



経営目標および進捗

青字：中計公表時の経営目標

黒字：2023年度実績（※2）

株主還元

総還元性向（在庫影響除き）

60%以上（3カ年累計）

60%

配当

200円/株以上（※1）

300円/株

財務健全性

ネットD/Eレシオ

1.0倍

0.83倍

自己資本

6,000億円以上

6,005億円

資本効率性

ROE（在庫影響除き）

10%以上

14.6%

ROIC（在庫影響除き）

6%以上

7.6%

収益性

経常利益（在庫影響除き）

1,650億円以上

1,622億円

当期純利益（在庫影響除き）

600億円以上

824億円

将来投資

New領域への投資

1,400億円
（3カ年累計）

195億円（※3）

DX

データ活用コア人材

900名創出

389名創出

HRX

エンゲージメント指数

60ポイント以上

60ポイント

人的資本投資

18万円/人

13万円/人

GX

GHG排出削減

2030年対2013年比
（Scope1,2,削減貢献込み）

▲30%

▲15%

（※1）2023年3月公表時。2024年5月時点では、300円/株以上（※2）2023年度実績には、一部速報値を含む（※3）資産売却（165億円）考慮前

① コスモグループについて (約5分)

② 中長期的な成長戦略 (約10分)

③ 足もとの業績 (約5分)

④ 株主還元 (約10分)

質疑応答 (約30分)

【2024年度 通期計画】収益概要

経常利益・純利益

(単位：億円)

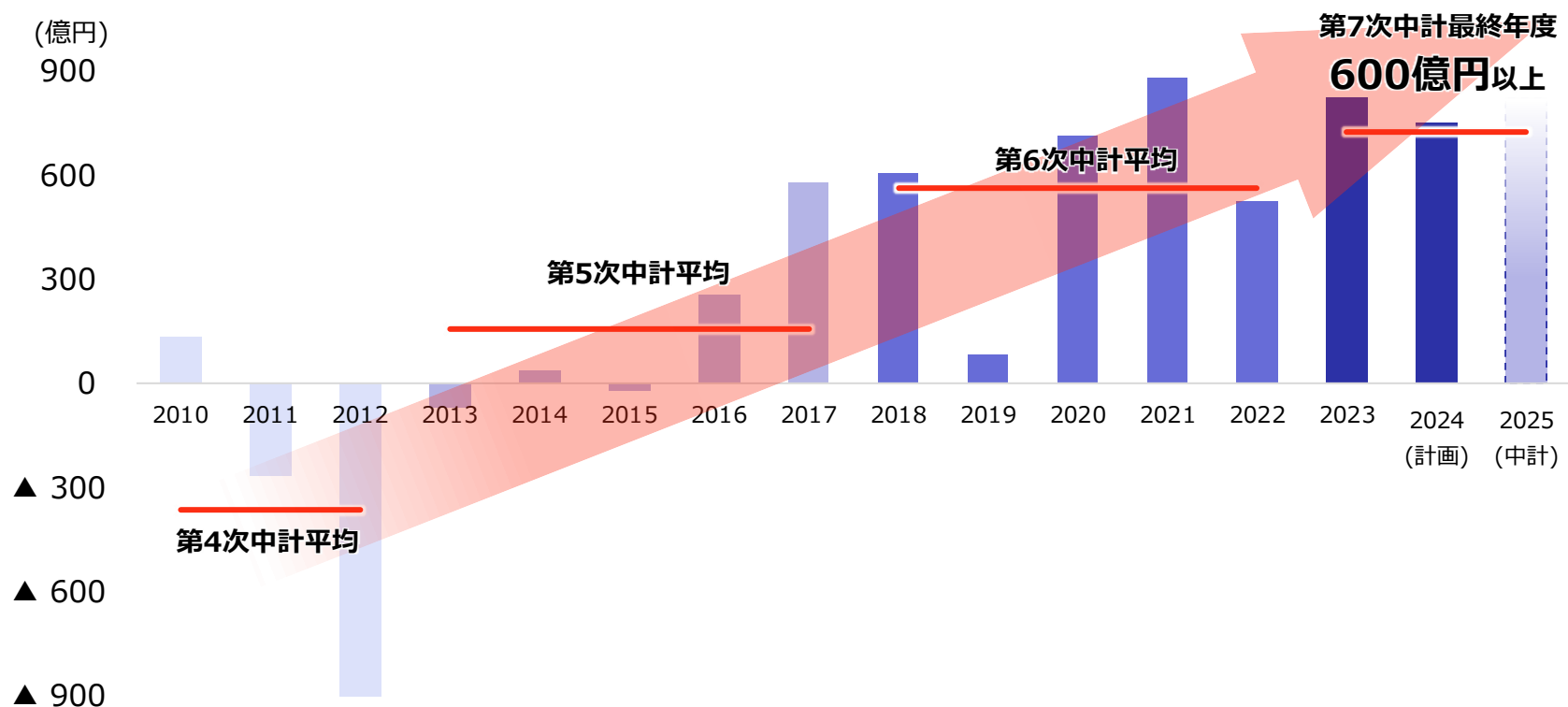
		2024年度 通期計画	2023年度 通期実績	2024年度 第1四半期	
1	連結	経常利益	1,650	1,616	531
		純利益	790	821	247
2	セグメント別 経常利益	石油事業	860	907	336
3		石油化学事業	0	▲ 78	▲ 12
4		石油開発事業 (※1)	660	683	166
5		再生可能エネルギー事業	20	28	▲ 0
6		その他 (※2)	110	76	41

(※1) 操業会社（アブダビ石油・カタール石油開発・合同石油開発）は12月決算 (※2) 連結処理値を含む

純利益（在庫影響除き）推移

最終利益も力強く上昇

在庫影響除き当期純利益



① コスモグループについて (約5分)

② 中長期的な成長戦略 (約10分)

③ 足もとの業績 (約5分)

④ 株主還元 (約10分)

質疑応答 (約30分)

株主還元の基本方針（配当の予定）

中計期間（2024-25年度） 配当（予定）

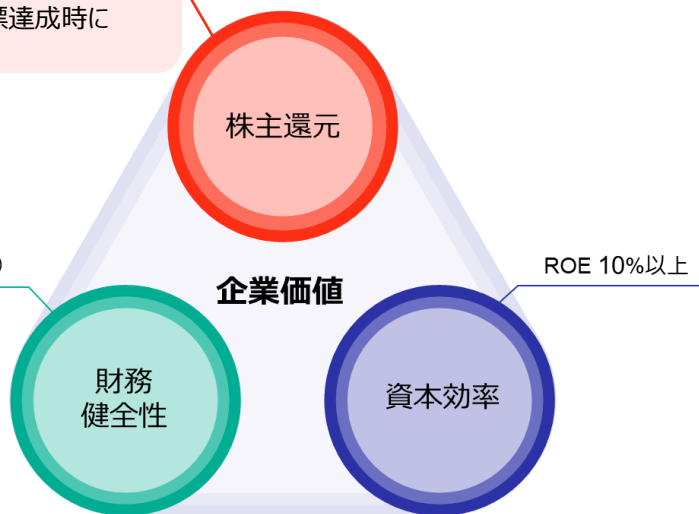
300円（中間配当150円 / 期末配当150円）

- 総還元性向 **60%**以上※

- 配当 **300円/株**
（下限300円以上）

※ 財務健全性目標達成時に追加還元実施

ネットD/Eレシオ1.0倍
（自己資本 6,000億円以上）



経営目標

総還元性向
（在庫影響除き）

60%以上
（3ヵ年累計）

配当

300円/株
（下限300円以上）

ネットD/Eレシオ

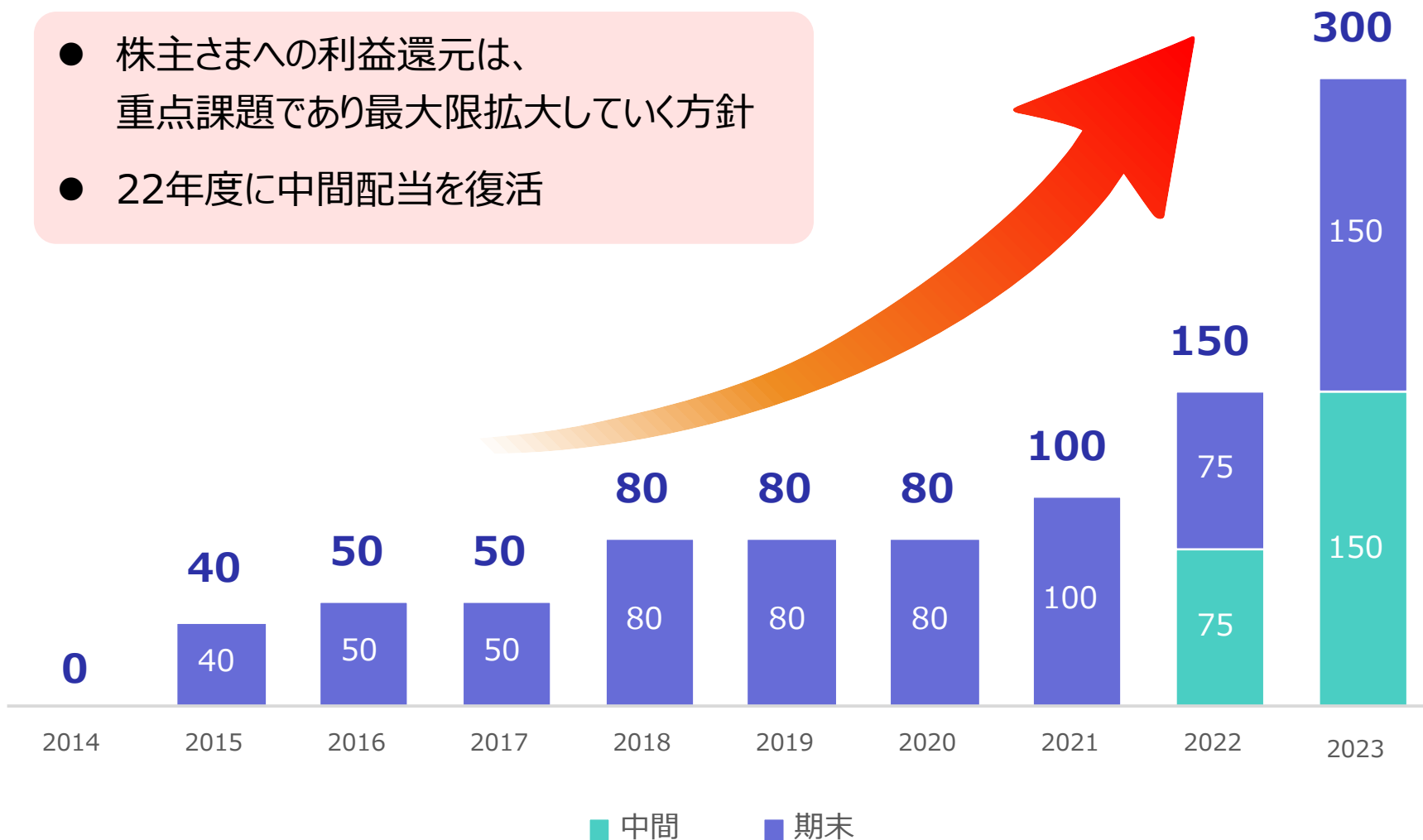
1.0倍
（自己資本6,000億円以上）

ROE

10%以上

年間配当金の推移

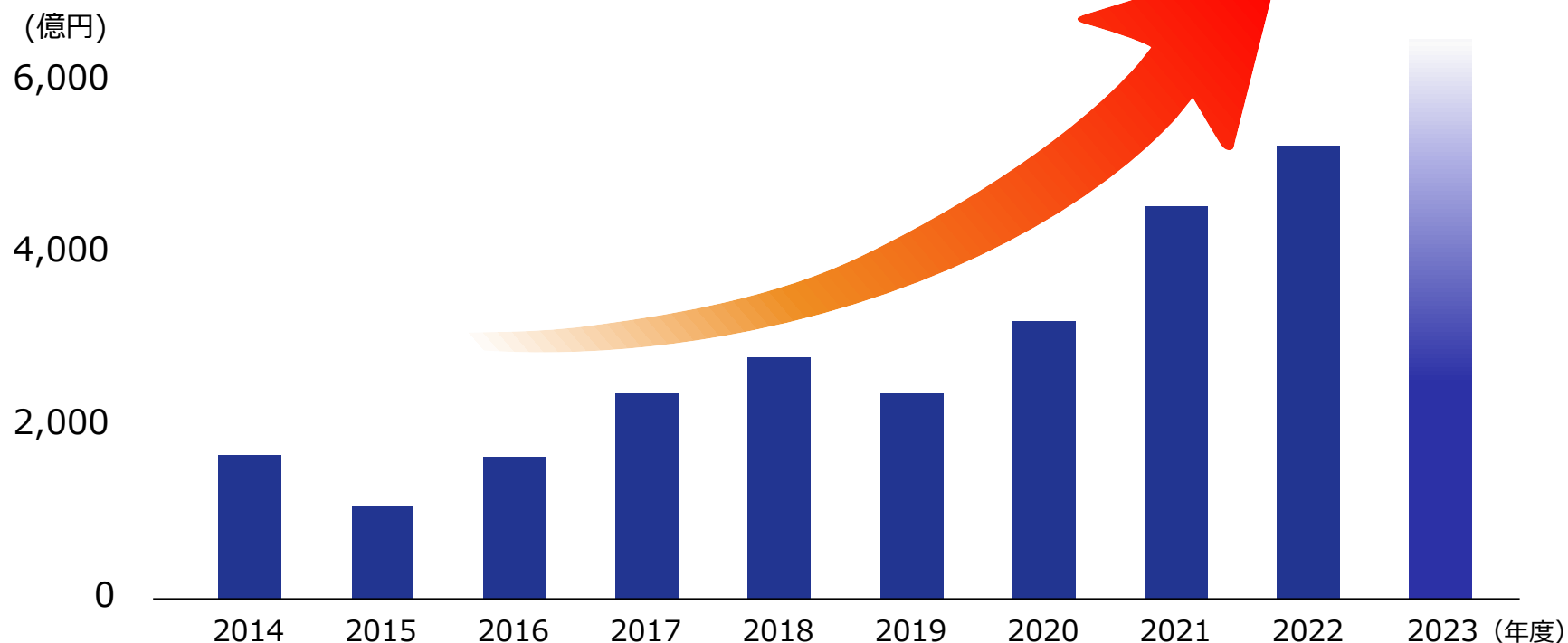
- 株主さまへの利益還元は、重点課題であり最大限拡大していく方針
- 22年度に中間配当を復活



自己資本の推移

先の東日本大震災で棄損した財務健全性の回復に努め、
前中計で自己資本を積み上げ財務健全性の強化を実現
現中計では積極的な還元へ

自己資本の推移



株価の推移

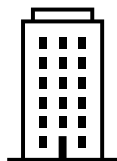


直近4年で大幅な株価上昇



【ご参考】 配当利回り

当社株式の配当利回り



約 **4%**

1株あたり配当 **300**円 (下限)

株価 **7,860**円

(8月26日終値)

株式100万円分の場合

リターン (配当)

約**4**万円

※いずれも税引前

日本の金利状況

2024年8月時点

	商品名	年利	預入金額	100万円預入 リターン
 銀行	普通預金	0.020%	1円以上	200円
	大口定期	0.025%	1,000万円以上	250円
	スーパー定期 (300万円以上)	0.025%	300万円以上	250円
	スーパー定期 (300万円未満)	0.025%	1円以上	250円
 郵便局	通常貯金	0.020%	1円以上	200円
	定額貯金 (3年以上)	0.110%	1,000円以上	1,100円

本日のまとめ

株主さまから高くご評価いただく「還元」

年間配当300円（下限）

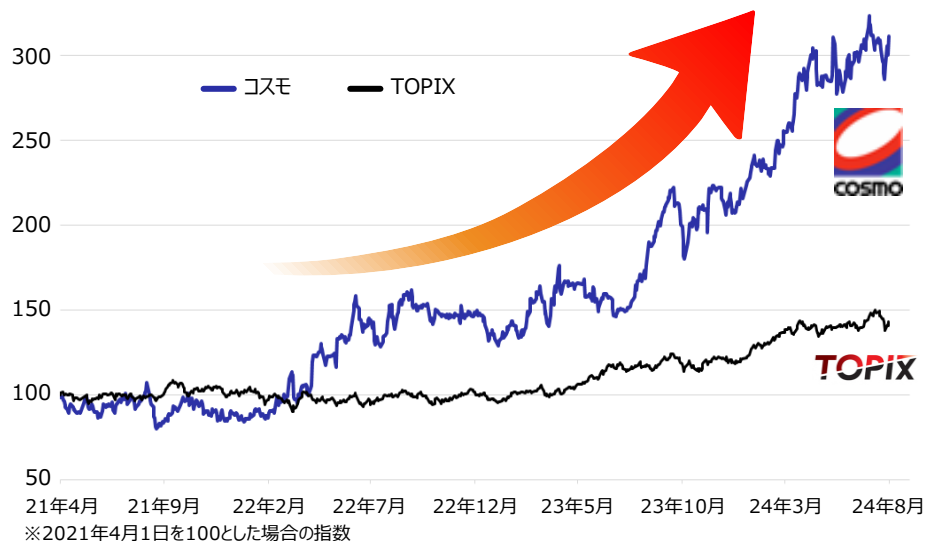
引き続き早期還元の実現を目指す

自己株買い

230億を上限とする自己株式取得中

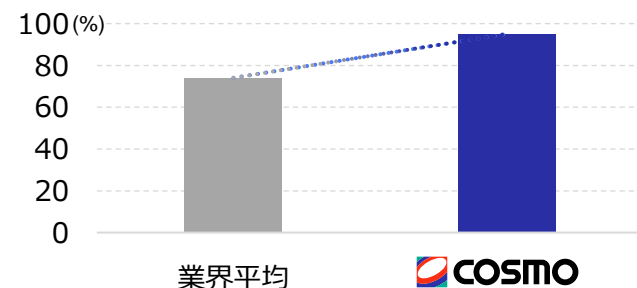
総還元性向60%以上

財務健全性目標達成時に追加還元実施



【強み】収益力

業界平均を大きく上回る高稼働率
安全操業・安定供給



中長期成長：中計収益計画

2025 経常利益 1,650 億円以上
当期純利益 600 億円以上

2030 経常利益 2,000~2,500億円
当期純利益 900~1,200億円

① コスモグループについて (約5分)

② 中長期的な成長戦略 (約10分)

③ 足もとの業績 (約5分)

④ 株主還元 (約10分)

質疑応答 (約30分)

将来の見通しに関する記述についての注意事項

本書の記述及び記載された情報は、「将来の見通しに関する情報」（準拠する日本の証券法における意義の範囲内）にあたります。かかる記述や情報（以下、合わせて「将来の見通しに関する記述」）は、将来の出来事や当社の将来の業績、事業見通しあるいは事業機会に関連するものです。将来の見通しに関する記述は、将来の業績予想、未確定の推定量及び経営者がおいた前提に基づく、埋蔵量・資源量の評価、将来の生産水準、将来の設備投資や探査・開発活動への設備投資配分、将来の掘削・その他探査・開発活動、最終的な埋蔵量・資源量の回収、特定鉱区の探査・開発・予想生産能力への到達時期などに関する記述を含みますが、これらに限定されるものではありません。

過去の事実以外のあらゆる記述が将来の見通しに関する記述になる可能性があります。確認及び推定埋蔵量・資源量の評価に関する記述も将来の見通しに関する記述の対象となり、その埋蔵量・資源量について経済的に開発が可能であるという特定の前提に基づく結論を反映しているとみなされる可能性があります。予想、期待、考え、計画、予測、目標、前提、将来の出来事や業績に関する議論について示す・関するあらゆる記述（「目指す」、「想定する」、「計画する」、「継続する」、「予測する」、「期待する」、「可能性がある」、「するだろう」、「予想する」、「予見する」、「潜在的な」、「狙う」、「意図する」、「ありうる」、「しかねない」、「するはずだ」、「思う」等の言葉や言い回し、その他類似する表現が使われることが多いですが、必ず使われるわけではありません）は、過去の事実の記述ではなく、「将来の見通しに関する記述」である可能性があります。将来の見通しに関する記述には、かかる将来の見通しに関する記述で予想されたものとは大きく異なる実際の結果や出来事を引き起こす可能性がある既知及び未知のリスク、不確実性並びにその他要因を伴います。

これらの将来の見通しに関する記述に反映された期待は合理的なものであると当社は考えますが、これらの期待が正しいとの保証はなく、このような将来の見通しに関する記述に過度に依拠すべきではありません。適用法令により義務付けられている場合を除き、当社はこれらの将来の見通しに関する記述を更新するつもりはなく、またその義務を一切負いません。

これらの将来の見通しに関する記述は、とりわけ、原油価格の変動、探査・開発活動の結果、付保されていないリスク、規制の変更、権原上の瑕疵、資材や設備の有無、政府その他の規制承認等の適時性、設備の実際の稼働、合理的な条件での資金調達の有無、仕様や期待に関連する外部サービス提供者、設備及びプロセスの有無、並びに操業における予期せぬ環境的な影響を含む様々な事項に関するリスクと不確実性を伴います。実際の結果は、かかる将来の見通しに関する記述に明示あるいは黙示された内容と大きく異なる場合があります。